

夏に流行始まるRSウイルス感染症

県感染症情報センター

声なき感染症を知る

◆63◆

RSウイルス。それほど有名ではないウイルスなので、ご存じの方は少ないかもしれません。以前は秋から冬に流行するとと思われていましたが、調査が進むと、実は夏から流行が始まっていることが分かつてきました。特に乳児や高齢者には、夏の咳にも、注意いただきたく、

今回はRSウイルス感染症についてお話しします。

△RSウイルス感染症とは

RSウイルスは「Respiratory Syncytial Virus

(レスピラトリ・シンシチアル・ウイルス)」の略で、レスピラトリとは呼吸器の」を意味し、シンシチアルは、このウイルスを培養検査すると多核巨細胞(シンシチウム)合胞体)が作られるこ

とを現す名前ですが、呼吸器に感染すること以外はわかりにくいため、そのままRS(アルエス)ウイルスと呼ばれています。

△繰り返し感染

RSウイルスは、感染しても免疫がで

きにくいウイルスです。そのため、赤ちゃんから高齢者まで、何度も感染を繰り返します。このことから、ワクチンはありません。

△年齢により異なる病状

乳児と高齢者は注意 治療薬なく予防肝心

ほとんどの乳幼児が2歳までに一度は感染しており、特に生後半年までの乳児は重症化しやすく、肺炎等で入院が必要になります。大きくなると症状は軽くなり、健康な成人では、普通感冒(いわゆる風邪)程度の症状で回復します。しかし、慢性の肺疾患や心疾患がある高齢者は重症化しやすく、死亡することもあります。

△繰り返し感染

RSウイルスにはワクチンがなく、治療薬もありません。この点から、うつ

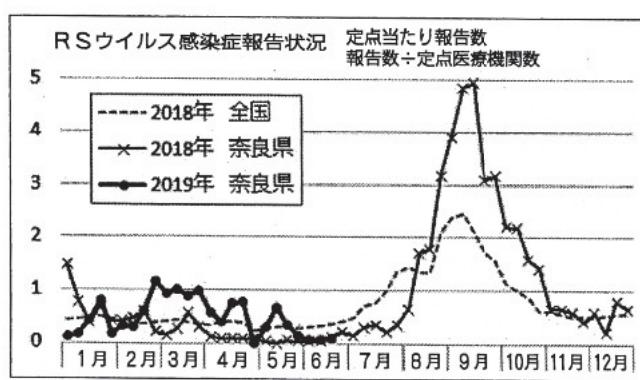
症状は、インフルエンザは、全年齢の人にはインフルエンザとわかりやすい症状が出ますが、RSウイルス感染症は初めは発熱、咳等の風邪症状で、この段階が先です。

まず患者と接触しないことが最大の予防となります。乳児や高齢者は、RSウイルス感染症が流行する時期には、必ず咳をしている人にはできるだけ近づかないで、密接な接触は避けることが重要です。次に、接触感染しますので、手洗いやアルコールによる手指消毒をこまめに消毒することも有効です。

また、RSウイルス感染症の高リスク群とされる、早産児や先天性心疾患のある2歳までの子どもには、予防薬(抗体成分)の毎月接種が保険適用されています。ドアノブや手すりをアルコールでこまめに消毒することも有効です。

うないようになります。感染経路には、咳、くしゃみなどの飛沫を受けて感染する飛沫感染と、患者の唾液や鼻水が付着したものを持つて感染する接觸感染があります。

集団生活では感染が広がりやすいため、集団生活の場では持ち込まないこと等があります。借りはしないこと等があります。



元気な成人では、感染していてもインフルエンザより軽い症状であることがあります。しかし、乳児や高齢者には、非常に脅威です。児童では、乳幼児突然死症候群(SIDS)の原因のひとつとされています。児童では、乳幼児突然死症候群(SIDS)の原因のひとつとされています。高齢者にとって、「高齢者の命の灯火を消す」ともいわれることから、乳幼児と高齢者には、非常に脅威です。乳児や高齢者のところに、ウイルスが降って湧いてくるわけではなく、RSウイルス感染の自覚がない学童や成人が持ち込むのですから、流行時期には、周りの人の体調も考えることが必要でしょう。(県感染症情報センター)